

# 令和 年度農薬展示ほ（水稻）成績書

担当機関名：  
担当者名：

作物名：早期水稻  
対象病害虫名：カメムシ類  
展示農薬名：Aフロアブル  
展示目的：防除効果および薬害の検討

1 展示方法

実施場所：☆☆市▽▽地区  
面積：展示区 20 a 対照区 20 a  
耕種概要 品種名：コシヒカリ  
播種日：2月25日  
移植日：3月25日  
出穂日：6月28日  
収穫日：7月28日

2 処理時期、量、方法等

処理時期：令和2年6月30日（生育ステージ：穂揃い期）  
処理量：展示区 Aフロアブル 200ℓ /10a 1000倍 展着剤名（☆☆☆）  
対照区 B水和剤 200ℓ /10a 1000倍 展着剤名（☆☆☆）  
処理方法：動力散布機で散布。  
散布履歴：両区ともカメムシ類を対象にした薬剤はされていない。

3 対象病害虫の発生状況

ホソハリカメムシ・ミナミアオカメムシが例年より多く発生した。  
クモヘリカメムシは例年並みの発生であった。

4 処理前後の気象

月日	6/29	○6/30	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6
天気	☉	○	○	●	☉	●	○	○
平均気温(℃)	23.9	26.3	27.6	24.7	25.8	24.1	28.5	28.2
降水量(mm)	0	0	0	10.0	0	23.5	0	0

5 調査時期、方法

薬剤散布前及び散布2、7日後に1区50回振りのすくいとりにより種別（成、幼虫別）の生息数を調査した。  
さらに、収穫後に玄米中の斑点米数（1,000粒中）を調査した。

6 成績

区別	農薬名	種別	散布前			散布2日後			散布7日後			斑点米数	薬害
			成	幼	計	成	幼	計	成	幼	計		
展示区	Aフロアブル	ミナミ	11	3	14	4	0	4	2	0	2	0	-
		ホソハリ	8	2	10	3	0	3	1	0	1		
		その他	4	1	5	1	0	1	0	0	0		
		計	23	6	29	8	0	8	3	0	3		
対照区	B水和剤	ミナミ	10	3	13	5	0	5	3	0	3	0	-
		ホソハリ	9	3	12	5	0	5	2	0	2		
		その他	5	2	7	2	0	2	0	0	0		
		計	24	8	32	12	0	12	5	0	5		

7 考察、農家の意見など

- ①防除効果：対照区（B水和剤）と比較して  
（A：非常に高い B：高い C：同等 D：やや低い E：低い F：判定不能）
- ②薬害：薬害の発生はみられなかった。
- ③担当者及び農家の意見  
担当者：対照剤に比べ、殺虫効果も高く、斑点米の発生もみられなかった。  
農家：対照剤に比べ、防除効果が高いことから今後使用していきたい。

8 普及性

- ①普及性の有無：(A)：有 B：無 C：判定不能)
- ②普及技術上の所見  
対照剤に比べ、防除効果が高いことから、地区の防除歴への採用を検討したい。

# 令和 年度農薬展示ほ（茶）成績書

担当機関名：  
担当者名：

作物名：茶  
対象病虫害名：カンザワハダニ  
展示農薬名：○○○○  
展示目的：防除効果及び薬害検討

1 展示方法

実施場所：○○町大字△△  
面積：展示区 80a 対照区 20a  
耕種概要 品種名：やぶきた  
樹齢：約30年

2 処理時期、量、方法等

処理時期：令和○年8月25日（生育ステージ：萌芽期～一葉展開）  
処理量：展示区 ○○○○ 300L/10a 希釈倍率2000倍  
対照区 △△△△ 300L/10a 希釈倍率1000倍  
処理方法：乗用型防除機（ダニノズル）、展示区（○○○○・◎◎◎◎・□□□□）、  
対照区（△△△△・□□□□）  
散布履歴：9月9日 展示区（ ・ ） 対照区（ ・ ）

3 対象病虫害の発生状況

散布調査前では、多発生（寄生葉率○○%）

4 処理前後の気象

月日	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27	8/28	8/29	8/30	8/31	9/1
天気	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	◎
平均気温	27.7	27.9	26.6	25.6	25.6	25.6	26.0	27.1	28.0	27.3
日降水量	0.0	0.0	18.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.0

5 調査時期、方法

散布前（8/23）、散布後4日後（8/29）、散布後13日後（9/7）

6 成績

区別	農薬名	濃度・散布量 (倍)	生育虫数（上段：虫数下段：散布前比）			薬害
			散布前 8月23日	4日後 8月29日	13日後 9月7日	
展示区	○○○○	2000	100	33 33%	4 4%	無
対照区	△△△△	1000	365	28 7%	2 0.5%	無

※生育虫数：できれば卵と幼・成虫に分ける

7 考察、農家の意見など

①防除効果：対照区（薬剤名を記入）と比較して  
（A：非常に高い B：高い C：同等 D：やや低い E：低い F：判定不能）

②薬害：無

③担当者及び農家の意見

担当者：速効性はあるが、対照区と比べ残効が短いため、多発生時には注意が必要。

農家：△△△△同様、効果はあるように感じた。

8 普及性

①普及性の有無：（A：有 B：無 C：判定不能）

②普及技術上の所見

防除体系への組み入れ可

## 令和 年度農薬展示ほ（野菜）成績書

担当機関名：  
担当者名：

作物名：キュウリ  
対象病害虫名：うどんこ病  
展示農薬名：Aフロアブル  
展示目的：防除効果および薬害の検討

1 展示方法

実施場所：☆☆市△△地区 現地農家圃場  
面積：展示区 10 a 対照区 10 a  
耕種概要 品種名 ○○○○（台木▽▽）  
播種日 令和2年8月15日（台木8月17日）  
定植日 令和2年9月10日  
栽培概要 畦幅180cm×株間50cm 1条植え つる下げ栽培  
収穫期 令和2年12月～

2 処理時期、量、方法等

処理時期：令和2年9月30日（生育ステージ：本葉6～7葉展開期）  
処理量：展示区 Aフロアブル 2000ℓ/10a 2000倍 展着剤名（スカッシュ 1000倍）  
対照区 B水和剤 2000ℓ/10a 1000倍 展着剤名（スカッシュ 1000倍）  
処理方法：動力噴霧機で散布。  
散布履歴：展示区 9/10 Cフロアブル 3000倍  
対照区：9/10 Cフロアブル 3000倍

3 対象病害虫の発生状況

多発生（第1回散布時には初発生を確認し、調査日までには多発生となった）

4 処理前後の気象

月日	9月29日	30日	10月1日	2日	3日	4日	5日	6日
天気	☉	☉	☉	●	☉	●	☉	☉
平均気温(℃)	19.9	24.3	22.6	20.7	21.8	21.1	22.5	22.2
降水量(mm)	0	0	0	15.5	0	12.0	0	0

施設栽培であり、降雨による影響なし。散布日の最高気温が29℃と高温であった。

5 調査時期、方法

散布直前（9月30日）、散布7日後（10月7日）に、各処理区の10株の中位葉10葉（100葉/区）を任意に選び、発病を程度別に調査し、発病葉率および発病度を算出した。薬害は随時肉眼観察した。

6 成績

区別	農薬名	調査日	調査葉数	発病葉率(%)	発病程度別葉数					発病度	薬害
					A	B	C	D	E		
展示区	Aフロアブル	散布直前	100	10	0	0	0	10	90	2.5	±
		散布7日後		5	0	0	0	5	90	1.3	
対照区	B水和剤	散布直前	100	10	0	0	0	10	90	2.5	—
		散布7日後		10	0	0	0	10	90	2.5	

発病程度は県植防協会の展示ほ調査及び取りまとめ要領による

7 考察

- ①防除効果：対照区（B水和剤）と比較して（A：非常に高い B：高い C：同等 D：やや低い E：低い F：判定不能）
- ②薬害：葉縁が一部で薬害と見られる白変が発生したが、軽微であり、その後の生育には影響がなかった。果実の汚れについても問題無かった。
- ③担当者及び農家の意見  
担当者：A水和剤2000倍は、キュウリのうどんこ病に対して、対照のB水和剤1000倍に比べて同等の防除効果が認められた。薬害と思われる葉の焼けが見られしたが、軽微であり、その後の生育に影響はなく、問題はないと考えられる。  
農家：B水和剤より溶かしやすく、効果もあったので、今後とも使用してみたい。

8 普及性

- ①普及性の有無：(A)：有 B：無 C：判定不能)
- ②普及技術上の所見  
対照薬剤と同等の効果があり、普及性はある。軽微な薬害はあったため、防除暦に採用するかどうか技術員会で検討したい。

## 令和 年度農薬展示ほ（果樹）成績書

担当機関名：

担当者名：

作物名：うめ  
 対象病虫害名：黒星病  
 展示農薬名：A剤  
 展示目的：防除効果及び薬害検討

## 1 展示方法

実施場所：○○町△△地区

面積：展示区25a 対照区20a

耕種概要 品種名：南高 樹齢：6年 収穫日：青梅 6/10～  
完熟梅6/20～

## 2 処理時期、量、方法等

処理時期：令和○年6月1日(生育ステージ：果実肥大期(果実横径3～4cm))

処理量：展示区：A剤 500L/10a 希釈倍率1500倍 展着剤名( )

対照区：B剤 500L/10a 希釈倍率2000倍 展着剤名( )

処理方法：動力噴霧器で散布

散布履歴：4/2 C剤 1000倍 500L/10a

" D剤 1500倍 500L/10a

5/4 E剤 1000倍 500L/10a

" F剤 1500倍 500L/10a

## 3 対象病虫害の発生状況

散布前調査では微発生

## 4 処理前後の気象(○○)

月日	5/30	5/31	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8
天気	○	○	◎	○	○	●	●	●	●	●
平均気温(°C)	23.8	22.9	18.9	18.7	18.9	16.9	18.8	18.6	21.9	22.4
日降水量(mm)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	38.5	4.0	10.5	1.5	2.5

※ 太枠は処理日、天気は○晴れ、◎曇り、●雨

## 5 調査時期、方法

散布前(5/30)、散布7日後(6/8)、散布16日後(6/17)に1樹30果×3樹、合計90果における発病果を調査し発病果率を算出した。薬害は随時肉眼観察した。

## 6 成績

区別	農薬名	濃度(倍) 量(L/10a)	調査 果数	発病果率(%)			薬害
				散布前(5/30)	7日後(6/8)	16日後(6/17)	
展示区	A剤	1500 500	90	0.8	2.2	2.2	なし
対照区	B剤	2000 500	90	1.3	2.4	3.3	なし

## 7 考察、農家の意見など

①防除効果：対照区(B剤)と比較して  
(A：非常に高い B：高い C：同等) D：やや低い E：低い F：判定不能)

②薬害：なし

③担当者及び農家の意見

担当者：対照区と同様に病果の増加は見られず、一定の効果があった。

農家：今年は黒星病の発生が多いが展示区は比較的少ない。水への溶けが良い。

## 8 普及性

①普及性の有無：(A：有) B：無 C：判定不能)

②普及技術上の所見：他の薬剤と組み合わせた防除体系への組み入れを検討する。

# 令和 年度農薬展示ほ（花き）成績書

担当機関名：  
担当者名：

作物名：キイチゴ  
対象病虫害名：ハダニ類  
展示農薬名：○○○○  
展示目的：防除効果及び薬害の検討

1 展示方法

実施場所：○○市 △△  
面積：展示区 0.4a 対照区 1.6a  
耕種概要 品種名：キイチゴ「ベビーハンズ」  
定植日：令和○年10月29日  
栽培概要：株間1.5m 1条植え  
収穫：令和○年度はなし

※施設栽培の場合は  
・AP改良、中期展張等記入

2 処理時期、量、方法等

処理時期：令和○年4月8日（生育ステージ： 生育期 ）  
処理量：展示区 ○○○○  
200L/10a 希釈倍率 2000倍 展着剤名（ なし ）  
対照区 △△△△  
233L/10a 希釈倍率 2000倍 展着剤名（ なし ）  
処理方法：動力噴霧器による散布、展示区は背負いの動力噴霧器  
散布履歴：□□□□ （3月25日頃 2000倍）

3 対象病虫害の発生状況 発生なし

4 処理前後の気象 観測地点：○○市△△

月日	/11	/12	/13	/14	/15	/16	/17	/18	/19
天候	○	●/◎	●/◎	◎/○	●/◎	◎/○	●/◎	●	●
平均気温(°C)	25.8	26.8	26.2	27.1	26.2	25.4	25.4	25.8	23.6

5 調査時期、方法

散布前 ○/7 散布3日後 散布10日後  
調査葉が落葉したため20日後の調査はできなかった。  
1区20葉 反復なし

6 成績（生息虫数は1葉あたり）

区別	農薬名	濃度(倍)	生息虫数				散布前比			薬害
			散布前	3日後	10日後	20日後	3日後	10日後	20日後	
展示区	○○○									なし
対照区	△△△									なし

7 考察、農家の意見など

①防除効果：対照区（△△△△）と比較して  
（A：非常に高い B：高い C：同等 D：やや低い E：低い F：判定不能）

②薬害：なし

③担当者及び農家の意見

担当者：薬害も確認されず、ハダニの発生もなかった。  
農家：散布後にハダニの発生がなかったのが良かった。

8 普及性

①普及性の有無：（A：有 B：無 C：判定不能）

②普及技術上の所見：薬害も確認されなかったため、ローテーションの1剤として使用できる。

# 令和 年度農薬展示ほ（飼料用稲）成績書

担当機関名：  
担当者名：

作物名：稲発酵粗飼料  
対象病害虫：ウンカ類  
展示農薬名：〇〇箱粒剤  
展示目的：防除効果および薬害の検討

1 展示方法

実施場所：☆☆町△△  
面積：展示区 20a 対照区 20a  
耕種概要 品種名：ミナミュタカ  
播種日：5月30日  
移植日：6月20日  
出穂日：8月26日  
収穫日：9月15日

2 処理年月日、量、方法等

処理時期：展示区：令和2年6月20日、対照区：令和2年6月13日  
処理量：育苗箱1箱当り50g  
処理方法：育苗箱に薬剤を均一に散布した。  
散布履歴：薬剤処理後、調査日までの間の薬剤散布はなし。

3 対象病害虫の発生状況

ウンカ類の発生は少なかった。

4 処理前後の気象

月日	6/13	6/14	6/15	6/16	6/17	6/18	6/19	6/20	6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26
天気	☉	☉	●	●	☉	●	●	●	●	●○	○	○	☉●	●
平均(℃)	20.8	20.1	17.4	20.3	22.7	22.2	20.2	22.3	22.9	26.4	27.3	27.5	25.7	25.6
降水量(mm)	0.5	1	95	224	1	104	163	59	12	13	0	0	36	39

※ 月日の○ は処理日、天候の○晴れ、☉曇り、●雨

5 調査時期、方法

調査時期：8月9日、調査方法：20株ずつ2カ所、計40株

6 調査結果

(対照病害虫：ウンカ類)

区別	農薬名	種別	成虫	幼虫	計	薬害
展示区	〇〇箱粒剤	センノウカ ヒメヒヨウカ ヒメヒヨウカ	1 0 0	1 0 0	2 0 0	無
対照区	△□箱粒剤	センノウカ ヒメヒヨウカ ヒメヒヨウカ	4 0 0	14 0 0	18 0 0	無

7 考察、農家の意見など

- ① 防除効果：対照区(△□箱粒剤)と比較して (A；非常に高い、B；高い、C；同等、D；やや低い、E；低い、F；判定不能)
- ② 薬害：無し
- ③ 担当者及び農家の意見  
担当者：ウンカ類に対する防除効果は展示区の方が高かった。薬害や本田生育等についても特に問題は無かった。  
農家：ウンカ類に対する防除効果が見られた。

8 普及性

- ① 普及性の有無：(A)；有 B；無 C；判定不能
- ② 普及技術上の所見：ウンカ類に対する防除効果は高く、またコブノメイガの発生も確認されず、普及性はあると思われる。